

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

協和食品工業株式会社における
ボイラー更新事業

排出削減事業者名：協和食品工業株式会社

排出削減事業共同実施者名：静岡ガス株式会社

その他関連事業者名：（該当なし）

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	協和食品工業株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	協和食品工業株式会社
住所	静岡市駿河区寿町5番20号
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	静岡ガス株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

協和食品工業株式会社におけるボイラー更新事業

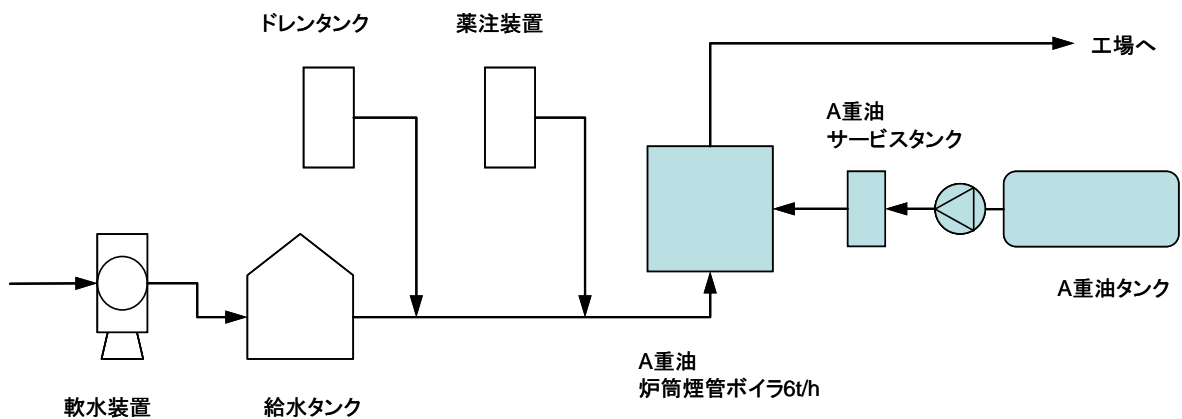
2.2 排出削減事業の目的

本事業は協和食品工業株式会社の既設の A 重油炉筒煙管ボイラーを、更新した都市ガス貫流ボイラーにより代替することで、省エネルギーを図るとともに CO2 を削減する事業である。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

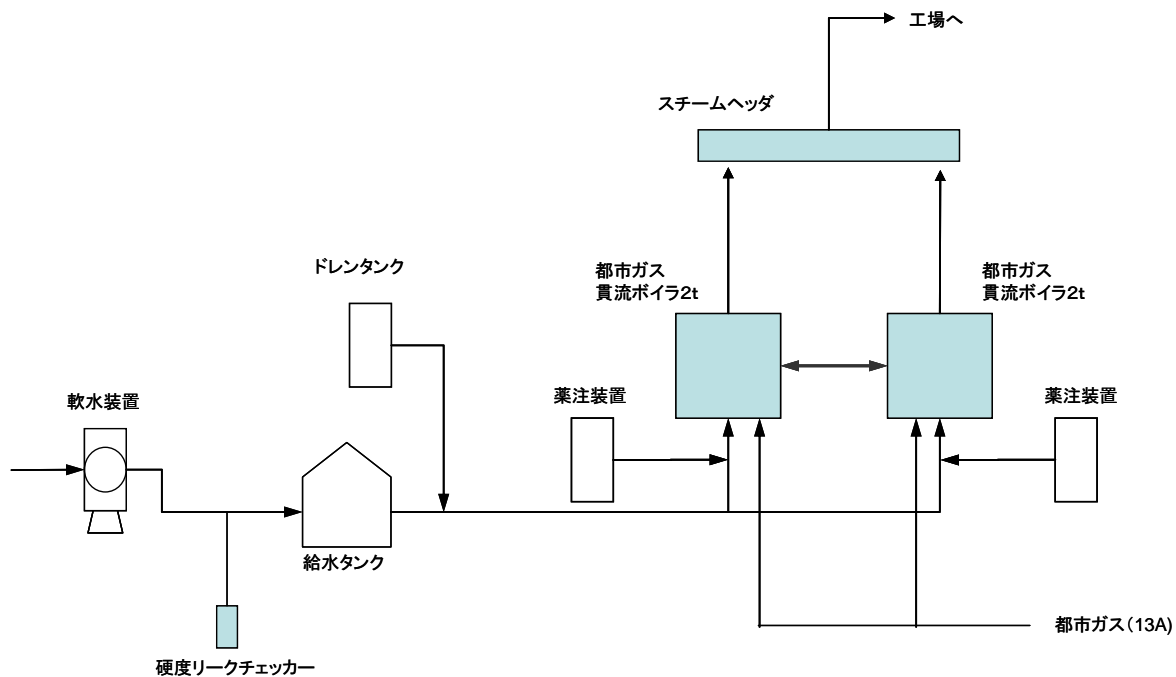
(排出削減事業実施前の設備概要)

A 重油焼き炉筒煙管ボイラー 6t/h ×1 台



(排出削減事業実施後の設備概要)

都市ガス焼き貫流ボイラー 2t/h ×2 台



2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

特になし。

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2010年1月5日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2013年4月1日 ～2018年1月4日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

本削減事業において活動量は用いない。

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは更新するボイラーとそのボイラーから蒸気の供給を受ける工場の製造設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある 場合、) 変更理由
$F_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガス使用量	Nm^3	2013年度 176,399 2014年度 179,061 2015年度 143,187 2016年度 132,135 2017年度 97,082 合計 727,864	ガス供給会社からの「ガス料金検針票 (ガスご使用量のお知らせ)」を基に 算定 ※換算係数 0.962	N/A
$HV_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガスの単位発熱量	GJ/千 N m^3	2013年度 44.0 2014年度 46.4 2015年度 46.0 2016年度 46.0 2017年度 46.0	デフォルト値	N/A
ϵ_{Pj}	燃料転換後ボイラー効率	%	88.2%	カタログ値に低位高位変換係数を乗 じて導出	N/A
ϵ_{BI}	燃料転換前ボイラー効率	%	83.6%	カタログ値に低位高位変換係数を乗 じて導出	N/A
$\text{CF}_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あたりの CO2 排 出係数	tCO_2/GJ	2013年度 0.0708 2014年度 0.0708 2015年度 0.0708 2016年度 0.0708	デフォルト値	N/A

			2017年度 0.0708		
$CF_{fuel,Pj}$	都市ガスの単位発熱量あたりの CO2 排出係数	tCO2/GJ	2013年度 0.0517 2014年度 0.0517 2015年度 0.0521 2016年度 0.0521 2017年度 0.0521	デフォルト値	N/A

6 排出削減量の計算

6.1 事業実施後排出量

年度	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	176,399 Nm ³	44.0 GJ/千 N m ³	0.0517 tCO ₂ /GJ	401.3 t
2014 年度	179,061 Nm ³	46.4 GJ/千 N m ³	0.0517 tCO ₂ /GJ	429.5 t
2015 年度	143,187 Nm ³	46.0 GJ/千 N m ³	0.0521 tCO ₂ /GJ	343.2 t
2016 年度	132,135 Nm ³	46.0 GJ/千 N m ³	0.0521 tCO ₂ /GJ	316.7 t
2017 年度	97,082 Nm ³	46.0 GJ/千 N m ³	0.0521 tCO ₂ /GJ	232.7 t
EM _{PJ}				1723.4 t

6.2 ベースライン排出量

年度	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	210.5 kl	38.9 GJ/kl	0.0708 tCO ₂ /GJ	579.7 t
2014 年度	225.3 kl	38.9 GJ/kl	0.0708 tCO ₂ /GJ	620.5 t
2015 年度	178.6 kl	38.9 GJ/kl	0.0708 tCO ₂ /GJ	491.9 t
2016 年度	164.8 kl	38.9 GJ/kl	0.0708 tCO ₂ /GJ	453.9 t
2017 年度	121.1 kl	38.9 GJ/kl	0.0708 tCO ₂ /GJ	333.5 t
EM _{BL}				2479.5 t

6.3 リークエージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0tCO ₂

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	削減量
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	2479.5tCO ₂
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	1723.4tCO ₂
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0tCO ₂
温室効果ガス排出削減量	ER	756tCO ₂

7 省エネルギー量

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
903.6	856.6	47.0

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (2013年4月1日 ~2018年1月4日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			
	t			